

東金御成街道の近代の変化について

——船橋から習志野地域の街道開発史——

社会学部現代社会学科 11922098

指導教員 関根 理恵

氏名 山本祥司

要旨

江戸時代初期に船橋から東金にかけて造成された東金御成街道は、先行研究によって造成の経緯や背景についての研究は進んでいるが、街道がどのように変化していったのか、そして現状についての研究はやや欠けている。そこで本研究では、東金御成街道の近世から現代までの変化の過程を、先行研究を元に整理分析し、現在の状態を現地調査によって把握した。研究の目的は、現在、東金御成街道が開発によってどのように変化したのかの現況を記録し、その文化的景観が街道沿いにどの程度残されているのかを特定することである。

第一章では、研究対象である東金御成街道の造成に関する歴史と背景について、先行研究を分析する。またそれらから得た結果を元に、街道の起点、およびその区切りとなる地点を定め、現地調査の範囲を定めた後、先行研究で調査を行う範囲について造成に伴う村普請に関する資料から調査対象を決定する。

第二章では、一章で記述した調査範囲を、大きく船橋市、習志野市の二つのエリアに分け、さらにそれぞれのエリアを歴史的特徴から四つのエリアに分割する。エリアごとに近世から近代にかけての変遷を述べた後、昭和期の都市計画がどのような方針でなされたかについて述べ、それらから、特に現代の都市計画における用途地域への着目を決め、調査の前提を述べるとする。

第三章では、現地調査及び調査結果を記述する。四つに分割されたエリアごとに現地調査で得た情報を記述し、他資料の比較、都市計画の用途地域の要素を踏まえ、それらの理由について記述する。

第四章では、調査結果から得られた現在の状態と、二章で記述した都市の変遷から考察を行った。その結果、街道沿いの景観は商業地部では過去の様子がほとんど残っていないほどに変化し、商業地から大きくぬけたエリアにならなくては、過去の景観とのつながりはかなり薄くなってしまっていた。これは、発展のための利便性を優先した結果、街道周辺の文化的景観は保存されていなかったためである。都市計画において文化的景観がほとんど残らない街道の景観により、地方への愛着を持たなくなった地方都市の人が近郊へと散っていってしまう可能性から危機感を覚え、より街道沿いの文化的景観の復興に努めていくべきであると考えた。